

# Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

## Vol.12

### 第九回 ボランティア活動推進部会開催

いよいよ「第二次ボランティア活動推進計画」に関する議論も大詰めです。六日のボラ部会では、事業計画における具体的な対策と実施目標等について事務局より提案し、委員の皆様からご意見を頂きました。

ボランティア・市民活動の振興において欠かせない五つの「資源」を、事業計画の柱（施策）とした。その達成のために行うことを「具体的対策」として示した。

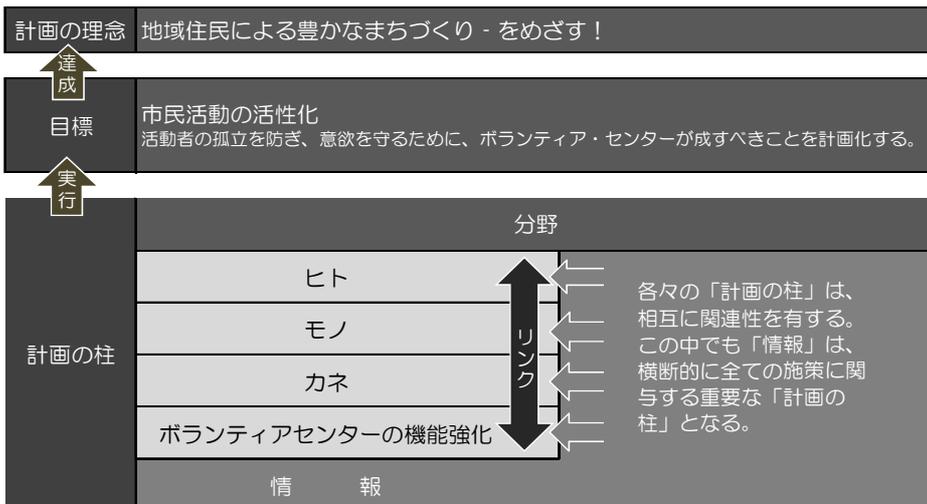
#### 一 ヒト

前回の意見を受けて、新たに具体的対策を以下の通り追加した。▼「仲間づくり」としてのボランティア・市民活動の推進▼趣味や技能を活かしたボランティア・市民活動の推進

#### 二 モノ（場所）

権限移譲。  
▼市民の政策提言を受け止める制度の整備と市民への権限移譲。  
施策①主体的に活動場所を探そうとする者への側面的な支援：先進のモノ（場所）の有効活用事例を紹介する。また、使える可能性が

ある「場所」を紹介し、開拓を促す。②三浦市総合福祉センターの余裕スペースと付帯設備の



#### 三 カネ

貸出しと周知。  
施策①多様な受益のあり方の尊重。：ファンドレイジング（民間非営利団体が、活動資金を個人・法人・政府等から集める行為の総称。）の支援。公費導入のルール作り。社協が実施する活動助成事業の実施。

#### 四 ボランティアセンターの機能強化



▲（上図）今まで話し合いを重ねてきた「計画の柱」について整理をつけた。これらの柱は、ボランティア・市民活動の振興に欠かすことのできない「資源」である。

▲（左図）「資源」の一例を「パン屋さん（営利）」と「子育てサークル（非営利）」の両面で示す。全ての「資源」が、営利・非営利それぞれの活動の振興のために必要な構成要素であることが分かる。



▲会議の様子

施策①ボランティアコーディネーターの資質向上：研修制度確立・スーパービジョン機能強化・フィールドワークの実践。  
 ②連携機能の強化：異団体間の交流の促進・民間企業や社会福祉施設との連携・三浦市社協と三浦市協働推進課の連携等。③社会福祉協議会ボランティアセンターとしての業務：新しい地域課題に対応するためのルールづくり・社協組織を活かしたボランティア受け入れ態勢整備等

**五 情報**

施策①発信する情報コンテンツの充実（増量・種類の拡大）：ホームページの整備・広報紙「社協みうら」の充実等  
 ②ボランティア・市民活動団体の情報発信を支援：ボランティア

ヒト	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動者の“意欲を応援”する。</li> <li>●社協活動を通じて把握した“生活課題”を地域社会にフィードバックし、その解決に向けて活動しようという当該住民の増を図る。</li> <li>●ボランティア・市民活動を積極的（多様な広報媒体を通じて）に顕彰する。</li> <li>●ボランティア・市民活動の間口を広げ（敷居を低くし）、これに参加しやすい環境を整備する。</li> <li>●“仲間づくり”という視点で、個々の活動をつないでいく。</li> <li>●ボランティア・市民活動を行っている者が、これを継続できるようなアフターフォローの仕組みを構築する。</li> <li>●最終的には、ボランティア自身がボランティアを養成するような社会をめざす。</li> </ul>
モノ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身近な活動場所を確保する。</li> <li>●主体的に活動場所を探そうとする者への支援策を講ずる。</li> </ul>
カネ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多様な資金源の確保と、受益の仕組みづくりを支援する。</li> <li>●公費助成の仕組みづくりを促進する。</li> </ul>
ボランティアセンターの機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティアセンターの役割を全ての三浦市社会福祉協議会職員が自覚し、その職責を果たす。</li> <li>●インターミディアリー（intermediary）な組織として、人材や資金、社会資源を地域社会のために活動するボランティア・市民活動団体に仲介・連携（つなぐ）する役割を強化する。</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティア・市民活動団体自身が情報を発信しようとする際には、これを側面的に支援する。</li> <li>●ボランティアセンターは、ボランティア・市民活動に関する情報の共有と一元化をめざす。</li> <li>●情報の発信においては、これを受信する者のニーズに合わせて情報を加工する。</li> <li>●社会問題に対する市民の意識の喚起（課題提起）を意図した情報を発信する。</li> </ul>

▲各施策の達成により、ボランティア・市民活動の活性化を目指す。上表は各施策における達成目標。

いと、継続していくことは非常に困難。（石崎）  
 ▼（地域）の病院の立場から）資金面で、援助より、スペースの開放や人的資源の支援の方が協力しやすい。（日景）  
 ▼寄付の

文化づくりが大切。（佐藤）  
 ▼特定目的寄付金に市民活動枠を設けるのはどうか？活動に資金は不可欠。そういう意識を活動者は共有すべきだ。（石川）  
 ▼寄付者にステッカー等を渡すことで「繋がった」と認識して貰える。（石川）  
 ▼寄付の一方通行はよくない。「寄付してよかった」「ボランティアしてよかった」と相互に思えること、「やりがい」が大切。（石崎）  
 ▼このご時世で行政に補助金を求めるのは無理。民間とのリスク配分が必要。（佐藤）  
**ボランティアセンターの機能強化について**  
 ▼プロボノ（専門性をもつボランティア）とボランティア・市民活動団体が結びつくことで、活動に付加価値が生まれる。当該活動団体が作る製品のデザインをプロボノが行う等。（石川）  
 ▼活動団体としてのマーケティング力が不足している、プロボノと結び付きたいという思いや、インターネットを活用した宣伝を行いたいという思いがあるが、自力での実現が難しい。（石崎）  
 ▼協働推進課と社協の協働体制を深めたい。（石川）

▼人と人が繋がると色んなことが回りだす。まず現実の繋がりがないと、ソーシャルネットワークキングサービスの利用は難しい。（石川）  
 ▼市民の、社協や協働推進課に対する理解が広まって欲しい。（水野）  
 ▼サークル構成員が持つ人間関係から、情報が広まることがあった。つながる手立てが必要。（水野）  
 ▼ボランティア・市民活動団体に所属していなくても、情報が得られるようになると、多くの人が参加しやすくなるのでは。（加藤）  
 ＊＊＊  
 次回は、事業計画に、実施期間・実施主体・財源・評価指標を足し、計画を完成させたいと思います。

**編集後記**

▼杉崎との格闘が続いています。文章校正の日々が…。明日は、どっちだ！（佐藤）  
 ▼「正す」の概念を覆すような…そんな校正です。歪む！心が！（杉崎）  
 ▼花粉症には負けないぞ。三浦の桜も見逃さない（出口）  
 ▼春の予想…？にドキドキ？（高井）

次回 ボラ部会  
 四月二十五日（木）  
 十四時～ 開催